

ネパール大地震それから 2 ヶ月

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マナダール マダーブ ナラエン

4月25日ネパール大地震7.8Mからおよそ2ヶ月が経った。震源地ゴルカ郡バルパク村は壊滅状態であった。翌4月26日6.7Mの余震がシンドゥパルチョコ郡を襲い、月が替わり5月12日再びドルカ地方を中心に7.3Mの地震があった。大地震後の余震は現在に至るまで続いている。政府の発表によると死者9千人以上、山岳地帯ということもあって被災状況はまだ把握しきれていない。

地震直後、被災地の住民は約2週間余り余震の恐怖で家に戻らなかった。殆どの被災者は空地や広場に避難しテント生活をしていた。連日の十数回にも及ぶ余震が少し収まったところで、まだ家のある人々は家に戻り始めたが、5月12日の地震で再び避難生活に戻った。2ヶ月近く経った今、再び家に戻り始めている。

緊急支援物資は政府をはじめ国内外の多くの団体や外国政府からあったが、被災者へ直接届けるのが難しかったようだ。山々の険しい道での輸送の困難、寸断された道路での立往生、奥地まで運ぶ間、途中の村々での予定外の物資支給もあり、暫く食糧も行き渡らない状況が続いていた。最近になってようやく奥地にも食糧が届き始めたが十分なものではない。

ネパールは6月後半から雨季に入る。ブルーシートだけの簡易テントでは雨季を越せない。現に先月、雨や強風でテントが使い物にならなかった。被災者は仮設住宅を欲しがっている。

地震があった殆どの地域にミランクラブの里子たちがいる。しかし支援に限りがあるので、もっとも困っている地域を中心に支援することになった。

ミランクラブジャパン理事会で義援金をどのように使うか話し合われた。現地と連絡を取った結果、ブルーシート、食糧、現金、毛布を配るなど提案されたが、

最終的に仮住まいのための材料がいいのではとなり、状況をよく知る現地に任せることになった。



支援について打合せするMCNメンバー

ミランクラブネパールでは地方の支部から来てもらい話し合いが持たれた。緊急の課題として仮住まいはなくてはならないものなので、そのことで支援してほしいという意見が圧倒的だった。仮設住宅とまではいかないが、仮設小屋として最低限必要な材料を提供することにした。

これまでに皆さんからの義援金を2回に分けネパールへ送った。



ドルカ郡ガイリムディ村を視察
左からパクリン氏、マリ副会長、シュレスタ役員

6月10日ミランクラブネパールのメンバーがドルカ郡被災地で支援物資を配った。支援物資は小屋造りに必要な材料として鉄線、大小の釘、竹などと屋根に使うトタンシートだった。これには材料費

だけではなく輸送費もかかった。直接、被災した里子たちと支部関係者へ手渡した。カトマンズから北東 135km のドルカ郡ガイリムディ村へは支援の手が届かず困っていた状況ただけに村人はメンバーの訪問に大変感謝していた。ガイリムディ村は 6 ヶ月コースのミシン裁縫講座を行ったばかりだった。地震でミシンも倒壊した建物の下になってしまい、たぶんこれからの使用は不可能だろう。



バスの屋根に載せ村へ運ばれるトタンシート

6月19日カトマンズから北東85kmの被災地シンドウパルチョク郡へ同じ支援を行った。郡の中心チョウタラ町に里子、関係者に集まってもらい、直接手渡した。

これからも被災地へ出向く支援は続く。支援件数など詳細は次号に掲載予定。



ドルカ郡で里子にトタンシート配布



MCJ と MCN シンドウパルチョク
2015年4月25日大地震で被災された里子と
支部関係者へトタンシートの支援活動
2015年6月19日



手分けしてトタンシートを運ぶ里子たち



チョウタラ町で里子たちと記念撮影
下段左からマノズ・シュレスタ、サヌ・ラズ
カルニカール、メヌカ・マナンダール、チャ
ヤン・マリ、中段右端アマル・マリ



バスの屋根にトタンシートを載せる作業



チョウタラ町に集まった里子たち

ミランダルマスタリ学校では政府から派遣された検査官が建物の状態を調べ、ステッカーを貼った。ステッカーの種類は<緑>安全で使用可、<黄>修理してから使用可、<赤>危険、倒壊の恐れあり使用不可である。

職業訓練所と図書室は<赤>、校舎と寄宿舎は辛うじて<緑>であったが損害がないわけではない。階段の一部が崩れ、壁のひび割れや窓の落下があった。



左は学校<緑>右は図書室<赤>ステッカー

地震前には3階建校舎全てを使い10学年の生徒たちが学んでいた。しかし地震後6週間経ち学校が再開されたにもかかわらず学校に生徒が来ない。その理由は度重なる余震により子供たちの精神が不安定になっていること、親も2階以上の高い場所で子供たちが勉強することに不安を感じていたからであった。ダルマスタリだけではなく、どこの学校も同様な状況で、仮設校舎を造り始めている。その間、授業は校庭で行ったり、各々工夫して再開されている。



校庭での仮教室

ダルマスタリ学校では1年生から5年生まで校庭にシートを張っただけの仮設教室で授業を行い、6年生から10年生までは校舎1階の教室を使って授業を行っている。しかし、それだけでは教室が足りないので、交代で教室を使ったり、合同授業を行ったりしている。これからネパールは雨季に入るため、授業の継続が困難になる。学校はローンを組み、雨季に間に合うよう簡単な平屋建の仮設校舎を建て始めた。



校庭で仮設校舎建設の準備



仮設校舎建設中